

ダイワコーポ

本社機能を一部移転

工夫凝らす新オフィスに



高さの違うデスクを設置するなど、生産性を高める工夫を凝らしている

ダイワコーポレーション（光社長）は1日、本社機能の一部を自社保有する

都内のビルに移転し、営業を開始した。入居する施設管理部が工事を手掛け、従業員が生産性を高めて活躍できる環境に仕上げた。

所在地は品川区南大井6ノ17ノ10。本社から徒歩1分の距離にある「大森レインポール」の9階に、ビル管理担当部署の施設管理部が移転した。オフィス全体の延べ床面積は約138平方メートル。組織拡大に伴う先行

投資と、従業員が安心して働ける環境が必要と判断した。

工事はグループ会社で、外装工事や小修繕を含むリニューアル工事などを行うダイワ・ファシリティーマネジメントを展開する施設管理部が実施。今後の事業拡大に向け、顧客に施工事例の一つとして紹介できるよう、魅せるオフィスをコンセプトに設計した。

生産性向上で さまざま工夫

新オフィスは生産性向上を目指した多様な工夫を凝らしており、従業員がコミュニケーションを

図れるよう、レイアウトは一般的な対抗島型としつつ、個人の机を固定しないフリーアドレスを採用。デスクは業務に集中してもらうため、高さやデザインの違いなるものを導入したり、目に入る位置に植物を置いたりして景色の変化を意識した。

執務エリアはデスク環境に合わせ、数種類の照明器具を採用。業務を行うデスク頭上は、効率的に空間を照らすことのできる角型照明を、集中することやリラクセスを目的としたカウンター席などは、スポットライトや天井からつるすペンダントライトを設けた。

施設管理部オフィスの隣には役員室も新設し、75坪の大型モニターとカメラを用意することで、オンライン会議に対応できる。最大12人が着席できる大型テーブルを設置しても圧迫感を感じないよう、壁面と室内ドアをガラス面にするといった工夫も凝らした。